

2009年度 新歓合宿報告

報告者一寺司(3年)

期間 : 2009年5月3~5日

山城 : くじゅう

参加者: CL 寺司(3年)、SL 北島(3年)、甲斐(2年)、小須田(2年)、田中(2年)、立川(2年)
重松(1年)、竹下(1年)、藤田(1年)、荒木(4年)

2009年5月3日(日) 曇時々雨

6:20 西鉄天神BC~8:00 九重IC 8:10~8:55 九重登山口 9:24~雨ヶ池越え~11:53 坊ヶツル 12:43
~14:05 大船避難小屋~14:24 大船山頂 14:46~15:40 坊ヶツル

早朝 5:50 の集合から今年度の初合宿が始まる。GW 渋滞には巻き込まれずバス、タクシーを乗り継ぎ、九重登山口(長者原)に到着したのが AM9:00 頃という、近來まれに見る好スタート。30 分程度で支度を済ませ、SL 北島を先頭に我ら一行 9 人(荒木先輩は途中参加)は歩き始める。1 年藤田の、妙に大きいサブザック。中身は後ほど。

毎年恒例、雨ヶ池越えコース。沢を横切る手前で 1 年生初のエッセンタイム。昨年と同じ光景に記憶が蘇る。さらに登ったベンチのあるところでバックに三俣山を見、地図に自分たちの位置を探す。サクサク進んで 12 時前には坊ヶツルに到着。総じて途中休憩は 3 本ほど。心なしかいつもより楽に感じられたのは、雲が日光をさえぎっていたせいかな。

坊ヶツルでは 1 年生、2 年生がそれぞれ 1 梁ずつ 6 人用テントを設営。2 年生ができるのは当然、1 年生は高校山岳部員重松を中心に、上級生のアドバイスを受けながらも順調に設営する。

荷物をデポ、最小限の荷物を 2 つのザックにつめて、甲斐と小須田を除く一行は大船山を目指す。2 人は残ってカレー作り。雲行きは怪しく、雨が降る前にと登りを急ぐも避難小屋手前にて降雨の予感。雨男田中は自責の念を感じ始める。結局降っているようなないような天気であったが、稜線に出る前に一行はレインウェアを着用。中途半端な天気には惑わされる。1 時間と 30 分ほどで登頂。山頂にて、藤田の腰に巻いた風呂敷から嗜好品の山が。一同の笑顔を誘う。社交もこなす彼女は、近くの登山者にまで一品を差し出す。

2 人を坊ヶツルに残してから 3 時間後、再び一同は会す。2 人により明日のサンドイッチはすでに完成し、カレーも完成まじか。立川の評する、甲斐らしい普通のカレー。山で貴重な“普通の”味に、一行は舌鼓を打つ。

法華院温泉で入浴、モンベルのステラリッジで大富豪の後、22 時、就寝。

5月4日(月) 曇時々雨

4:00 起床~5:20 出発~6:55 久住分れ 7:10~御池~8:10 中岳 8:40~8:54 天狗ヶ城~9:20 久住分れ
~9:50 星生山 10:20~11:08 久住分れ~11:55 すがもり小屋 12:15~13:10 三俣山 13:20
~14:50 坊ヶツル

山の朝は早い。4 時起床でも、周りのテントのいくつかはすでに起きだしていた。朝食は棒ラーメン。今日もあいにくの曇り空。心なしかしとしと感するため、最初から雨具を着用して登る。北千里浜の手前、いつもの岩の前で“ゴリラストーン”を指差し全員であのポーズ。休憩もそこそこに、硫黄山の噴煙を眺めつつ、足元に転がる岩の中から硫黄の塊を探しつつ、久住分れまで。そして御池。やはり水切りをしたくなる。

そこからは大した登りもなく、九州最高峰中岳を頂く。九州最高点の男竹下とサンドイッチ。小須田作ハムジャムサンドは、雑食北島の口の中に。カラスが物欲しげに、我らの周りを回っていた。

天狗ヶ城から御池を見下ろし、再び久住分れへ。さらに西に、星生山。稜線からの道には“九重山噴火のため立ち入り禁止”の文字があったため、西千里浜から回ることにする。山頂からは噴煙を上げる硫黄山を見下ろせる。

稜線から再度久住分れを目指し、バイオトイレの前に降り立つ。ここには九大ワンゲルの姿が。誰が持ってきたのか、切り分けすぎたというみかんをありがたく頂戴し、胃袋を満たす。久住分れ到着、とここで見慣れた長身の男の姿が。北島に蹴りかかる。荒木先輩である。早朝より福岡からバイクを飛ばし、赤川温泉から登ってきたという。道中お一人で、恐れ入る。

10人がそろい一行はすがもり小屋へ。しばしの休憩の後、三俣山へ。九州きつての遭難多発のこの山は、ただただ登る。すべる。霧が掛かって、山頂が見えない。ただ登る。登頂。韓国人の登山者の集団と、情報交換。

疲れた体で坊ヶツルに帰還。一人一品鍋を食し、温泉に入り、ダンロップV6で大富豪をして23時、就寝。

5月5日(火) 雨のち曇り

5:00 起床～6:12 出発～7:50 久住分れ 8:00～8:20 久住山 8:40～11:20 赤川荘
14:30 黒川温泉～18:15 西鉄天神 BC

5時起床、朝食コーンフレーク。常温保存牛乳。素早く済ませられるこの食事は、テント撤収に掛かるタイムロスを補うため。北千里浜の手前の岩で、本日の天気は良好、あのポーズ。久住分れ、久住山へとサクサク進み、後は赤川荘まで下るだけ、と楽観していたのが大間違い。最後のくだりは急勾配に泥の斜面。みなそこかしこ泥をつけながら、はしゃぎながら、最後の山道を。と、舗装された道が見えたと思ったら、1年竹下の叫び声が。捻挫(?)。登山は最後まで気を抜いてはいけない。

赤川温泉に入り、黒川温泉バス停までタクシーに乗り、福岡に着いたのが渋滞の影響もあって18:15頃。

反省文

北島光朗

今回の合宿は、個人的にはかなり久しぶりの本格的な山行となった。ちゃんと山に登ったのは去年の夏合宿が最後だったため体力的に不安が多かったが、思っていたよりは順調に行動できたと思う。ただ本来今回やるべきことは合宿に「ついていく」ことでなく、後輩たちを「ひっぱっていく」ことであるため、そういう意味でちゃんと役割を果たせたのかということ、完全ではないだろう。もちろん、行動中・テント設営・調理などにおいてなるべく後輩に目を配るようにはしていたつもりだが、それらひとつひとつに関して自分に十分な余裕がなかったように思える。これまで先輩たちがどんな風にしていたか、それをひたすら必死に考えることが先行してしまっことは、まだまだ上級生としては未熟である。

自分が上級生として如何に振舞えたかはさておき、今年山岳部に入ってくれた新入生と行動やテントを共にしたことはとても楽しく、純粋に良い思い出となった。また、色々と観察していると、新入生に優しく積極的に関わってくれた2年生達にかなりの頼もしさを感じた。みんなしっかり先輩になったんだな、などと偉そうなことは言えないし、言うつもりもない。ただひたすら、これからの活動が楽しみになった瞬間であった。

今回の合宿を通して自分に見えた一番大きな課題はただ一つ。雰囲気作りだと思う。登りで苦しいとき、テン場で準備・片付けのとき、団欒のとき。合宿内だけでなく日ごろの活動・話し合いにおいても、常に自分に余裕をもたうえて、周りを見ながら場を盛り上げられるようにしていきたいと思う。...と決意表明のように書くのも滑稽なことだとは思いますが、大事なことなので実践していこうと思う。

あと、合宿の準備計画を何でも寺司に任せきりにしていたので、もっと頑張ろうと思う。

甲斐誠二

久々の合宿ですごく楽しかった。夏や冬に比べれば高低さもないし、荷物も軽いので余裕を持って登山できたと思う。プランクができないように日ごろからトレーニングをしておいたのがよかったと思う。しかし、やっぱ

り今回も雨が降ってしまって、きれいな景色を一年生に見せてあげることができなかったことが残念だった。一方、山の楽しみのもうひとつの食事は驚くほどよくできていて大変満足の出来だった。この合宿で九重は3度目なので、次までには上級生らしくどこにいても周りの山を答えられるようになっていたいと思う。

小須田勝利

交通事故による右足の打撲が完治しないままの参加。日常生活では痛みを感じない程度には回復している。

5月3日

早朝5時50分、天神駅集合。まだ通路が閉じている場所が多く、回り道を探すうちに駅を一周してしまい、10分ほど遅刻してしまった。そこから高速バスで移動し、九重へ。天気は良好。キノコのオブジェがやたら印象に残っている。

長者原の登山口に到着。懐かしさを感じつつ、ビビリな犬と戯れながら靴をなじませる。違和感が無いわけではないが、歩行に問題は無い。

いよいよ入山。しかし、もともと個性派の多い山岳部ではあるが、風呂敷包みを持って山に来るのは藤田くらのものだろう。中身はおやつらしい。

日差しの強さもあり、体感温度は高い。汗をかきつつ、去年初めてエッセンを食べたあのポイントへ。今年も、一年の初エッセンはそこだった。雨ヶ池を過ぎると、それまで記憶とほぼ同じだった風景に変化があった。柴が刈られ、だいぶ見通しが良くなっていた。個人的には前の方が好きだったが、これはこれで悪くないと思う。

坊ヶツルにテントを張り、自分と甲斐以外のメンバーは大船へ。あいにく、出発から1時間ほどで雨になり、景色はほとんど見えなかったらしい。その間、留守番組は2日目のサンドイッチを作っていた。ちなみにハズレ入りである。

5月4日

雨は止まず。一年生の経験にもなるし、一日くらいは雨でもいいかなとは思っていたが、だいぶタイミングが悪い。この日は、たまに雲の切れ間ができたとき以外は殆ど景色が見えなかった。

荷物をザック2つにまとめ、ローテーションしながら進む。北千里ヶ浜を抜けて久住分かれへ。ぬかるみも多く、スニーカー履きの1年生にはきつそうだった。

御池で甲斐の投石パフォーマンスを観覧し、8時には中岳山頂へ。かなりはやい昼食をとる。ハズレはK先輩が引いたらしい。

そこから天狗、星生山と登って再び久住分かれへ。ワンゲルと出会い、夏みかんをもらう。何故かマヨネーズを大量にかけたものもあったが、最早マヨの味しかなかった。

去年はスルーした三俣山にも登り、途中出会ったパーティーと、どこが山頂か分からないという話をして打ち解ける。相変わらず霧が濃く、視界はかなり悪かった。

坊ヶツルに戻り、鍋の用意。材料持ち寄りなこともあり、毎回質と量に大きな違いがでる鍋料理だが、今回はなかなか良かったと思う。量はやや多く、いつもなら一部のメンバーで頑張っただけ全部食べきる所だったが、みかんのお礼という名目でワンゲルに受け取ってもらった。

5月5日

雨は止んだ。風向きも変わり、北千里ヶ浜にも強い硫黄の匂いが漂う。

行きとは反対側の赤川に降りる。むやみと滑る黒土に苦戦しつつ、ようやく舗装道路にたどり着く。途中、竹下が足を軽く捻ったが、難所は抜けていたのでなんとかなった。

温泉に浸かり、疲れを癒やす。今後の活動についての簡単な会議を済ませ、旅館で飼われているらしい犬と戯れてタクシーを待つ。特に問題も無く高速バスに乗り換え、天神にもどって祝杯を挙げた。

天候など、やや残念な点はあったものの、山を楽しめる合宿だったと思う。今回不参加だったメンバー、特に1年生を加えての登山にも期待したい。

立川雄大

今回の新歓合宿の全体的な感想、反省は楽しく一年生と話しができ、自分が二年生だという責任感を感じましたが、同時に体調を整えておくことが大事だと感じました。

今までの合宿では自分の学年が一番下だったので合宿に対してそれほどの責任を感じませんでした。今回の合宿で一年生が加わったことで自分も上級生なんだということを感じ、責任をよく考えて行動しようと思えるようになりました。

ということで久住は半年前にも来たことはあったのですが、その時とは少し違ったように感じました。天気も今回晴れたところは前晴れてなかったし、その逆もあり、そして前には行かなかった三俣山にも今回初めて行き、見てたのとは違う風景や感じに本当に三俣かな、と思いました。そして出来れば、山頂では晴れて欲しかったと思いました。今回は三俣だけでなく中岳、大船山、星生とほとんどの山が晴れてなかったので一年生には晴れた綺麗な景色を見てほしかったです。

そして最後に自分は体調があまり優れないまま合宿に参加したのでこれからは整えてから参加しようと思います。

田中 宏典

1日目

今回は電車移動じゃなかったため、去年の田中の後を追う者は現れず。

長者原に向かうタクシーの中、寺司部長が運転手と話をしている後ろで、田中は朝日と汚れた会話を繰り返す。

田中にとって話の合う後輩ができるのは生まれて初めてのこと。

一期一会、巡り合いに感謝せねばなるまい。

思えば去年の新歓でも、田中はコマンダー松下先輩の i-pod からアイデンティティを見出すことが出来たのだった。

坊がヅルに着いてすぐ大船山へ。ヲタクライマー田中の汚れた心が雨を降らせる。

寺司部長や藤田嬢の晴れ男女パワーもそこにはなす術もないらしい。

キツイとき秒数を数えるのは賛同を得られず。田中だけだと判を押されてしまった。

しかし、大船山は数えるほどの山じゃない。

夕食、入浴後テントの中で王様大富豪。

重松嬢がいる中、田中はとんでもない質問をしてしまったのだが自覚はなかった。

田中の汚れた心は天候や人の心まで汚してしまうようだ。

朝日にこうなりたくなければ今のうちだと釘を刺すべきであろうか……。

また、昨日対面した寺司部長の彼女を、この時までずっと日本人だと思っていた田中であつた。

10時ごろ就寝。夜中の3時、催した田中はあろうことかヘッドランプをつけず便所へ。

帰りに自分のテントを見失い、手探りで余所のテントを覗き転々とする有様。

何かにぶつかったり明後日の方向に向かったりしながら、結局戻るのに20分もかかってしまった。

最強の反面教師ならぬ反面先輩田中の受難は後日も続く。

2日目

予定より一時間早い起床。後日の(というか40分前の)こともありコンディションはズタズ田中。

そのせいかこの日もしとしと嫌々な雨。田中の心の涙が止まらない。

何とか後輩の前でモタモタするという醜態は見せずに済んだ……と思う、というかそう願いたい。

ほぼ8時に中岳ういっしゅ。下山中にまたも朝日と汚れトーク。だんご大家族を斉唱。

早苗さん風に、田中の心は、田中の心は……汚れてしまっていたんですねえ～～(涙)。(何を今更)

星生にて早すぎる昼食。先日甲斐殿小須田殿のこしらえたサンドイッチを食す。北島先輩に小須田サンドの悪夢が。

藤田嬢の一人離れてでも石を探すという異様なまでの熱意に感嘆。

無垢なる研究心というものか。頭の中煩惱だらけの田中も見習いたい。

途中荒木先輩とまさかの遭遇。共にこの日3度目の久住分かれを目指す。

すがもり小屋から三俣山山頂への道行きでは、少しでも先輩らしくということでこの日2度目のザック。

一応去年は合宿皆勤なのでこの程度ならまだ余裕。

三俣山下山後は坊がヅルへ。今合宿のメインイベント、2日目の山行が終了。

下山後すぐ夕食準備。本日は一品鍋。誰か野菜持ってきたさいよ。

田中と重松嬢が白菜で被ったものの、けがの功名、却ってバランスの取れた鍋に。作り過ぎたのでワングル部にスープをお裾分け。

入浴後は先日に引き続き王様大富豪。朝日、重松嬢の意外な恋バナを聞いた。一方で田中は自分で振っておきながら、朝日に人見知りだと他己紹介され暫く凹んでいた。違う、あの時は本当に先輩2人が仕事そっちのけで懸垂下降初めて気が動転してて…。まあ同じ人見知りの濡の男版だと思ってくれ。「私も行くう～(涙)」「萌え萌え～キュン♥」また藤田嬢の四次元風呂敷には平身低頭である。

3日目

本日は5時起床。キャンプ撤収後久住山頂へ、そして赤川温泉まで下りる。久住はもう何度も登ったが、2年になり後輩も出来て初めて登る久住は今までと一味違って新鮮だった。田中の汚れた心の涙でぬかるんだ道を下りる。もうすぐ舗装路というところで朝日が足を捻ってしまった。昨日の王様大富豪で装備をちゃんと揃えて来たかったと言っていたのを思い出す。田中も運動靴での久住山道の歩き辛さは去年経験してよくわかっていたはずなのに、装備を揃えていない以上、先輩として誰かがよく注意すべきではなかっただろうか。小さな怪我が命取りとなるのが山である。部にとっても今後の課題となるだろう。しかも舗装路の途中で雨が降り出す。今合宿は部員全員に、田中の疾しい心が悪天候をもたらしたことを謝らねばなるまい。逆を言えば田中がいたら天候に気をつけて、と特に1年生に告ぐ。そうして長いようで短い新歓合宿が終了。

重松真理子

今回の合宿に参加して改めて山登りの楽しさを感じました。天候には恵まれませんでしたが、充実した連休を過ごすことができたと思います。また、今回の合宿を通して、これからの活動を有意義なものにするための個人的な目標を見つけました。それは、①体力をつけること②読図をできるようになること③臨機応変に行動することの3つです。次からはこの3つのことを考えて行動し、安全に楽しく山に登りながら自分自身成長できたらと思います。

竹下朝日

GW中の5月3日～5日、久住で山岳部では初の合宿、新歓合宿が行われた。最初のグラウンドガイドスから先輩方にお世話になっていた(仲良くなっていた?)自分にとってはGWで一番楽しみなイベントでした。合宿の感想ですが、それぞれの日ごとにまとめてみたいと思います。

1日目、朝5時50分集合ということで、初めて“始発”というものに乗りました。いよいよこれから山に登るのだという、何とも言えない高揚感がありました。バスで久住まで、タクシーで登山口まで移動。自分の荷物がかわいく見えてしまうほどに大きい先輩方の荷物にさすがだなあと感心しました。そしていよいよ入山。しばらくして、初めてのエッセンを食べました。クッキーだらけの中にポツンとあったせんべいのありがたみに感謝しつつ、雨ヶ池越え。テント設置場所坊ヶツルに到着。まわりを山に囲まれた静かな場所でもとても気持ちよかったです。合宿最初の山、大船山。以前のぼった可也山よりも楽に登れました。体が慣れたのでしょうか？ただ、山頂はガスっていて(←使いこなせるようになりました)あまり風景を楽しむことができなかったので少し残念でした。大船山を下りた後はカレーを食べました。カレーの出来が素晴らしいこと+お腹がすいていたことで最高においしかったです。ただ、食後の水で薄めてそれを飲むという行為には手が出せませんでした。次回は挑戦したいと思います。夕食後は温泉とテントでゆっくりと。山だけでなく、部の人との話もとても楽しかったです。

2日目、この日は荷物を持たずに登りました。ただ、初日の疲れを思い出してしまったため、登り始めはかなり憂鬱な気分でした。それでも、登りながら話したり周りの風景を見ているうちに、また登るのが楽しくなってきました。坊ヶツルから久住分れまでの北千里が自分の中では一番お気に入りの場所になりました。九州本土で一番高い中岳、天狗の城、星生山、K先輩オススメの三俣山などたくさんの山に登れてよかったです。雨がポツポツ降っていたりガスっていたりしたのもある意味いい思い出になりました。

3日目、再び久住分れから今度は久住山へ。この日は疲れというよりも、もう合宿が終わってしまうのかというおいしい気持ちがありました。久住山からのくだりはド`ロ`ロでとても大変でした。もう舗装された道路が見えるというところで、まさかの捻挫をしてしまったことは今回の合宿で一番残念で反省すべき点だと思います。最後の最後まで気を緩めてはいけないということを学びました。最後に赤川荘の温泉でゆっくりして帰途につきました。

今回の合宿は本当にきつく、足も痛くなりましたが、それよりも山頂に着いた時の達成感や皆で協力して何かを行うという楽しさのほうが大きかったです。

最後に、次回までに改善すべき点をいくつかあげたいと思います。

必要最低限のものだけを持っていく(無駄な防寒着などが多かったため)

登山靴を履く!(足をくじかないため…)

自分の装備を整える(レインウェア、プラティパス、シュラフ etc…)

体力をつける(先輩のような大きなザックを背負えるぐらいに)

ほかにもたくさんありますが、ひとつひとつのことを改善しながら、すこしずつ慣れていきたいと思います。

藤田詩織

正直に申し上げますと、登山は私には体力的にきつく感じました。

ザックを持っていないにもかかわらず、上りは何とかついていっている、下りになると追いつけなくなる、という状態が続き、部員の皆様に色々とお迷惑をおかけして申し訳なく思っています。

疲れて毎日一人だけみんなより2時間くらい早く寝ていましたがそのため、私だけ2時間分テントの話聞き逃してしまい、残念です。

しかし、きちんと休養を取っていたおかげで毎日元気に怪我もせず過ごせました。

よく寝る人だという印象を与えてしまったでしょうが、寝ないと体力が持たなかったでしょう。

もし睡眠を取っていなければ、意識がもうろうとして危なかったのではないのでしょうか。

山岳部のくせに、「結局降りるのにどうして登っているのだろう」と考えながら歩いていました。

どうして山に登るのでしょうか？

「そこに山があるから」でしょうか？

しかし、頂上に着いた時の喜びは格別でした。

今回の合宿では霧が出ていて景色がよく見えないことも多かったですが、霧の晴れ間から見える景色はすばらしかったです。

九州の人は見慣れているのか火山には何の感動も示さず、逆に私の喜びようを笑われましたが、生まれて初めて活動中の火山を見ることができたのには感動しました。

硫黄を拾えたのも良かったです。

そして、反面教師にしては申し訳ないのですが、竹下君が捻挫して、先輩におんぶされて騒いでいるのを見て、最後の最後まで気をゆるめないことが大切だと実感しました。

今回は何も役に立わず、邪魔ばかりしていたので、次の合宿までに料理の修業をしようと考えています。

久住山を降りていくときに山ツツジがきれいに咲いていました。

先輩の話によると、5月後半から6月前半にかけてミヤマキリシマが咲いて、山がピンク色に染まるそうです。

その頃にもう一度行きたいと思います。